



烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

監視活動は重要!!

鳥山地域オウム真理教対策住民協議会

た。60人程いた「ひかりの輪」も今では6人です。6人ならもういいのではないか、と思うかもしませんが、そうではありません。

明けましておめでとうございます。昨年は地下鉄サリン事件から30年、鳥山地域においては、オウム信者が転入してきて25年という事で、新聞・テレビに取り上げられた1年でした。この25年間、町会・自治会や小中学校PTAの皆さんにも監視活動をお願いして、月に一回程度の詰所当番を実施してきました。特に、小さな町会ではいつも同じ方が詰所当番を担当している所もありました。皆さま本当にありがとうございます。

なぜそれまでして監視活動を続けるのか。鳥山地域のように警察の詰所がって、公安調査庁の詰所がある所は何処にもありません。かつて25年前にはオウム真理教の本部があり140人前後の信者が鳥山にはいたのです。監視の厳しさからか、アレフは分裂して半分は足立区に行きました

に新しいオウム真理教が誕生する」とでしょう。
私はいつも北海道を思うのです。7年ほど前に札幌の白石地区にオウムの施設が出来ました。「アレフ」の国内最大規模の拠点です。そこに視察に行った時、施設の駐輪場に普通に自転車で来て入っていく学生風の人や、小さな子どもの手を引いて施設に入っていく若いお母さんの姿を目の当たりにして、オウム真理教に何の疑念も示さない行政と何もない住民では、このような形になつていくものなのだと実感しました。ただ、今では住民協議会を立ち上げ、行政と共に活動を続けています。

オウム真理教に関わった人たちは誰も幸せにはならなかった。信者本人も、そしてその家族もです。鳥山からそんな人たちは出さないように、警鐘を鳴らし続ける事が住民協議会の仕事だと考えています。

オウム真理教との鬭いは大変ですが、それでも続けてまいります。やめる訳にはいかないのです。

これからも皆さんと一緒に闘つていきますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

『今後の活動予定』

3月23日 協議会ニュース216号発行
5月9日 第52回抗議デモ・学習会

法務大臣と公安調査庁長官に要請

令和7年12月9日、オウム真理教対策関係市区町連絡会（会長・近藤やよい足立区長）の16自治体と、金沢市、甲賀市の各住民対策協議会、オウム真理教対策国会議員連盟の議員や区議会議員は、法務省と公安調査庁を訪れ、観察処分の期間撤廃など7項目の法整備の要請書を、福山守法務大臣政務官と田野尻猛公安調査庁長官に手渡しました。

参加した住民協議会や、自治体からは、麻原の遺骨がアレフに渡った場合の懸念や、住民が気づかない不動産取得で施設の建設が進んでしまった心配、さらには現在の麻原の妻・子どもたちがアレフに及ぼす影響、来年度に迫る観察処分の期間更新の必要性などを訴えました。



▶ (左) 法務大臣政務官へ要請書を手交
(左) 公安調査庁長官との意見交換会

第51回 抗議デモ・学習会を開催

令和7年11月8日(土)、烏山地域の町会・自治会や衆議院、都議会、区議会の各議員も参加し、抗議デモと学習会を実施しました。

最初に烏山区民センター前広場にてシュプレヒコールをあげ、オウム真理教の後継団体の一つであるひかりの輪(上祐史浩代表)の施設に向け抗議デモを行いました。

学習会では、地下鉄サリン事件の頃からオウム真理教問題を第一線で取材しているテレビ朝日報道局「スーパーJチャンネル」の清田浩司デスクが講演されました。

清田デスクからは、オウム真理教による大きな犯罪を未然防止できなかった背景や問題点について「捜査」と「報道」の両視点から説明がありました。報道機関にはオウム真理教の実態を社会に明らかにした「功」がある一方、警察情報に依存しすぎた結果の誤報やメディアスクラム等の「罪」があると分析すると共に、弁護士一家殺人事件や松本サリン事件の被害者側のメディア不信に対して、当事者として長い時間かけて信頼関係を再構築してきた取り組みも紹介されました。

テレビ朝日で放映された上祐氏へのインタビューも上映され、「ああ言えば上祐」と言わされた同氏の質疑応答手法は現在も不变な



ことを確認しました。最後にオウム真理教問題は現在進行形の問題であり、報道機関は「裏取り」を生命線にこの問題を報道し続ける責任があるとの力強いコメントをいただきました。

終了予定期刻が過ぎても質疑応答が続くなど、参加者の強い関心と問題意識が表れた充実した学習会となりました。

抗議文

今年は地下鉄サリン事件から30年の節目の年である。多くのメディアがオウム真理教の一連の犯罪を振り返ると共に、今でも後遺症に苦しむ被害者や犠牲者遺族の変わらぬ苦しみを報道し、我々はオウム真理教の犯罪の非道さと、今なお続く問題の深刻さを改めて強く認識した。

しかし、オウム真理教の後継団体である「アレフ」、そしてここ烏山に拠点を置く「ひかりの輪」は、被害者や犠牲者遺族に対する本格的な賠償や謝罪から長年逃げ回るなど、30年を経ても自分たちが犯した行為に真摯に向き合っていない。

それどころか「ひかりの輪」の上祐は全国各地でセミナー・勉強会と称して勧誘活動を続けている。一方でメディア取材やSNSでは「アレフ」や公安調査庁を批判し、あたかも自分がオウム真理教の問題から距離を置く「ご意見番」であるかのような評論家的な発言をしている。

上祐は、無責任に他者を批判する前に、新たな宗教被害者を生む勧誘活動を直ちに止め、自らの賠償責任を果たし、その上で「ひかりの輪」を早期に解散・解体すべきである。

行政や地域住民からの支援や新たな参加者により、当協議会は「ひかりの輪」が解散・解体するまで粘り強く闘うことをここに宣言する。

令和7年11月8日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会
会長 古馬一行

〈学習会及び協議会活動への感想〉

～以下、学習会アンケートから一部抜粋～

【学習会への感想】

*現場や当事者を報道する立場から見てきたオウムを知ることができて良かった。清田さんの関心を追体験したようでした。なぜこうなった?に対する答えを今後も追ってほしいと思います。

*長きに渡り取材してきた記者としての視点からの話は、非常に興味深かった。メディアとしての反省点も含め、事情の経緯を今改めて辿る講演であり、烏山に引き続き不安が存在すること、このことを解決しなければならないことを認識することができました。

*メディアが警察報道を鵜呑みにしている事、裏取りもしないで報道しているのは本件のみではないだろう。また、警察の初動捜査の甘さを知るにつれ、怖さを感じるとともに、自分が同じ立場になった時に、何ができるのか考えさせられた。

*関心を持ち続けることが大切と再認識した。

TVを見なくなったので、こういう問題を思い出すことがないまま、YouTubeも見ます。

*権力側からの発信、そして報道をそのまま鵜のみにすることは危険だと思った。それはどうしてなのかと自分の頭で考えることが重要なのだと思った。

*アレフの麻原の次男が、どのように育ってきたのか知りたくなった。麻原の子だとはいえ、同じような人物になるとは限らないが、やはり親や周りの人達で過去を反省し、次男に伝えていく人間が皆無(不在)だったのかと想像した。

*普段お話を聞けない方からの講演だったので貴重な機会でした。時系列がまとまって分かりやすかったですし、メディアの反省をメディアの方から聞けたので印象的な講演になった。

【住民協議会への感想】

- ・デモに参加するたびに事件の忘却を感じる。風化を防ぐことが常に課題であると思う。
- ・今夏は、非常に暑い夏でした。そのような時でもずっと活動を続けておられることに心から敬意を表します。皆さんお身体を大切に、できる範囲で(できることを)続けていただければと思います。
- ・デモ行進は、ダラダラ歩くだけのデモが多い中、皆さんの気合いが最後まで続いていたのは、あのリーダーのあおり方が上手だからだった。住民活動は、こうあるべきという一例を見た気がする。
- ・次の世代へ教団の恐ろしさを伝える重要な活動だと感じた。
- ・オウムを風化させない活動に長年に渡り取り組んでいただき、本当に頭の下がる思いです。
- ・若い人たちの参加を促したい。

協議会ホームページアドレス <https://www.karasuyama-kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。

